

株式会社 大阪鶴見フラワーセンター

1. 法人の概要

【令和5年7月1日現在】 【役員名簿】

代表者名	代表取締役社長 藤井 敏光	設立年月日	平成2年11月1日		
電話番号	06(6913)4187	法人所管課	環境農林水産部 流通対策室 市場・検査指導課		
所在地	大阪市鶴見区茨田大宮2-7-70	HPアドレス	https://www.tsurumi-wfm.jp		
設立目的	1. 花き卸売市場施設の設置並びに管理運営 2. 損害保険代理業 3. 前各号に付帯又は関連する一切の事業				
主な出資団体 (出資割合)	大阪府	459,000	千円	25.5%	
	大阪市	459,000	千円	25.5%	
	金融機関	273,000	千円	15.2%	
	大阪生花卸市場	120,000	千円	6.7%	
	その他の団体	489,000	千円	27.1%	
資本金総額	1,800,000		千円		
備考					

2. 役職員の状況

(単位:人) 【各年度7月1日時点】

		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		府派遣	府OB	府派遣	府OB	府派遣	府OB
役員	常勤役員	2	0	2	0	2	0
	非常勤役員	6	2	6	2	6	2
職員	管理職	プロパー職員	0	0	0	0	0
		その他	2	0	1	0	1
	一般職	プロパー職員	2	0	3	0	3
		その他	1	1	2	1	2
	常勤職員計		5	1	6	1	6
	常勤以外の職員		0	0	0	0	0

プロパー職員(3 人)の給与に関する状況(令和4年度)

年間給与手当支給額平均	4,316	千円	平均年齢	38.3	歳
-------------	-------	----	------	------	---

役職名	氏名	現職名	現任期終了	備考
代表取締役社長	藤井 敏光		令和7年 定時株主総会	常勤・公募
常務取締役	濱田 浩告	(株)大阪鶴見フラワーセンター総務部長	令和7年 定時株主総会	常勤・公募
取締役	金丸 忠司	大阪府環境農林水産部流通対策室長	令和7年 定時株主総会	
取締役	田中 正樹	大阪府環境農林水産部流通対策室市場・検査指導課長	令和7年 定時株主総会	
取締役	河津 秀樹	大阪市経済戦略局産業振興部長	令和7年 定時株主総会	
取締役	橋本 志津子	大阪市経済戦略局産業振興部農業担当課長	令和7年 定時株主総会	
監査役	松元 真人	公認会計士	令和6年 定時株主総会	
監査役	腰岡 實	弁護士	令和6年 定時株主総会	

役員の定数・任期・選任方法				
定数	取締役	3名以上		
	監査役	2名以内		
任期	取締役	2年		
	監査役	4年		
選任方法	〔 取締役及び監査役は、株主総会の議決により、選任する 〕			

3. 主要事業の概要

【事業規模(営業収益)】

(単位:千円)

事業名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 予算	備考
① 花き卸売市場賃貸	499,047	611,648	673,925	685,972	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
全事業合計	499,047	611,648	673,925	685,972	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

【事業計画及び事業実績】

事業内容	事項	事業量		備考
		令和4年度実績	令和5年度計画	
施設の管理運営	大阪鶴見花き地方卸売市場	せり資格者数 874人 取扱高 27,028,090千円	せり資格者数 892人 取扱高 26,872,158千円	

4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 予算	補助金、委託料等の内容
補助金	0	0	0	0	
委託料	0	0	0	0	
貸付金	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0
府借入金残高(期末)	0	0	0

5. 財務状況

(単位:千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計	2,556,642	2,431,957	2,460,371	28,414	(現金預金) 現金預金の増加については、卸会社からの売上高資料の増(35,735千円)、売上高光熱費の増(18,269千円)、未収金の回収による増(69,000千円)、前受金の増(44,000千円)が主な要因である。
	流動資産	647,517	641,753	810,000	168,247	
	現金預金	517,064	500,847	664,055	163,208	
	未収金	3,071	7,725	1,286	△ 6,439	(有形固定資産) 有形固定資産の減少については、建物の減価償却累計額の増(83,000千円)が主な要因である。
	その他流動資産	127,381	133,181	144,660	11,479	
	固定資産	1,909,126	1,790,204	1,650,371	△ 139,833	(無形固定資産) 無形固定資産の増加については、ソフトウェア仮勘定の増(44,000千円)が主な要因である。
	有形固定資産	1,705,848	1,604,366	1,491,754	△ 112,612	
	無形固定資産	2,308	1,954	45,600	43,646	
	その他固定資産	200,970	183,885	113,017	△ 70,868	(その他固定資産) その他固定資産の減少については、リース投資資産の回収による減(70,868千円)によるものである。
	負債合計	614,901	467,934	502,698	34,764	
	流動負債	283,637	146,643	248,783	102,140	(未払金) 未払金の増加については、基幹システム検討費用による増(44,000千円)、セリ室階段改修工事費による増(24,000千円)が主な要因である。
	短期借入金	57,716	69,609	67,774	△ 1,835	
	未払金	216,469	31,407	105,429	74,022	
その他流動負債	9,453	45,626	75,580	29,954		
固定負債	331,264	321,291	253,915	△ 67,376	(その他流動負債) その他流動負債の増加については、前受金の増(44,000千円)が主な要因である。	
長期借入金	237,511	227,062	159,288	△ 67,774	(長期借入金) 長期借入金の減少については、返済による減(70,000千円)が主な要因である。	
各種引当金	1,153	1,629	2,027	398		
その他固定負債	92,600	92,600	92,600	0		
資本合計	1,941,741	1,964,023	1,957,673	△ 6,350		
資本金	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0		
剰余金	141,941	164,223	157,873	△ 6,350		
自己株式	△ 200	△ 200	△ 200	0		
損益計算書	売上高	499,047	611,648	673,925	62,277	(売上高) 売上高の増加については、取扱高増加による売上高資料の増(35,735千円)、セリ機賃賃料の増(8,619千円)が主な要因である。
	売上原価	449,806	497,757	529,730	31,973	
	販売費及び一般管理費	84,197	83,233	86,929	3,696	(売上原価) 売上原価の増加については、光熱水費の増(22,658千円)が主な要因である。
	営業利益(損失)	△ 34,956	30,659	57,266	26,607	
	営業外収益	4,464	4,500	5,377	877	
	営業外費用	268	1,552	1,320	△ 232	(特別損失) 特別損失については、空調設備更新等による固定資産除却損(1,588千円)、セリ室階段改修工事による固定資産撤去費(21,300千円)によるものである。
	経常利益(損失)	△ 30,760	33,606	61,323	27,717	
	特別利益	0	0	0	0	
	特別損失	70	5,989	22,888	16,899	
	法人税等	1,505	5,335	6,896	1,561	
当期利益(損失)	△ 32,334	22,282	31,540	9,258		
繰越利益剰余金	41,941	64,223	57,873	△ 6,350		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

(単位:千円)

仕組債の保有状況	保有総額<令和4年3月31日時点>	保有総額(A)<令和5年3月31日時点>	時価評価額(B)<令和5年3月31日時点>	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	0	0	0	0

主な経常費用	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	14,491	15,524	15,936	412	(職員人件費) 職員人件費の増加については、1名採用による増(1,089千円)が主な要因である。
職員人件費	45,970	44,771	46,089	1,318	
退職給付費用	267	476	398	△ 78	
減価償却費	124,633	169,129	168,535	△ 594	

主要経営指標		令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比増減	分析・評価
人件費比率	人件費／売上高	12.2%	9.9%	9.3%	-0.6%pt	(流動比率) 流動比率の減少については、流動負債の未払金の増(74,022千円)、前受金の増(44,000千円)が主な要因である。
販売管理費比率	販売費及び一般管理費／売上高	16.9%	13.6%	12.9%	-0.7%pt	
総資産当期利益率	当期利益／総資産	-1.3%	0.9%	1.3%	0.4%pt	
総資産回転期間	総資産／(売上高／12)(月)	61.48	47.71	43.81	-3.90	
売上高経常利益率	経常利益／売上高	-6.2%	5.5%	9.1%	3.6%pt	
流動比率	流動資産／流動負債	228.3%	437.6%	325.6%	-112.0%pt	
借入金比率	借入金残高／総資産	11.5%	12.2%	9.2%	-3.0%pt	

6. R4年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)								
戦略目標	成果測定指標	単位	R3実績値	R4目標値	R4実績値 (※1)	ウエイト	得点 (※2)	小計 (※3)
① 収益力の向上	当期経常利益	千円	33,606	29,834	61,323	40	40	40/40 【100%】
II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)								
③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	6	9	10	10	10	25/50 【50%】
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等	回	12	13	13	5	5	
	新規買受人の獲得	人	10	18	4	15	0	
④ 施設改修	経営状況を勘案した施設改修	百万円	134	145	121	10	0	
⑤ CS調査	花き卸売市場に対する買受人の不満足度	%	12.0	11.5	11.5	10	10	
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)								
② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(t)／廃棄物総量(t))	%	76	77	77	10	10	10/10 【100%】

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)
<p>令和4年度の花き業界は、新型コロナウイルス感染症の影響はなおあるものの、生産地に影響を与えた目立った天候不順も特になく、前期に比べ取扱数量は同程度、単価高であったため、売上高は前期を62百万円上回り6億74百万円となった。</p> <p>また、花きの取扱高増加に伴い、売上高賃料が増加したが、営業費用については、燃料高による水道光熱費の増、セリ室改修に係る業務委託費の増などにより、前期と比べ36百万円増の6億17百万円となった。結果として、「当期経常利益」は61百万円となり、最重点目標の項目で目標を達成することができた。</p> <p>また、消費拡大のためのイベント等の開催支援や市場関係者と生産地が連携して行う展示会・商談会も、目標どおりに実施できた。ただし、新規買受人の獲得については、新型コロナウイルス感染症の影響に起因する生産地の縮小と生産量の減少が市場での相場の単価高を招き、それに伴う仕入価格の上昇により小売店の苦境が続き、新規出店を断念する者が多かった。また、新規出店者が伸び悩んだことにより、花き業者の取引先の拡大も進まなかったため、新規買受人登録が伸び悩み、目標未達成となった。</p> <p>今後は卸売会社と連携し、生産地への出荷働きかけなど出店環境の改善に努めていくと共に、法人として、引き続き、単年度黒字を確保しながら、市場機能の強化に取り組むべく、施設整備の充実に努める。</p>	<p>75</p>

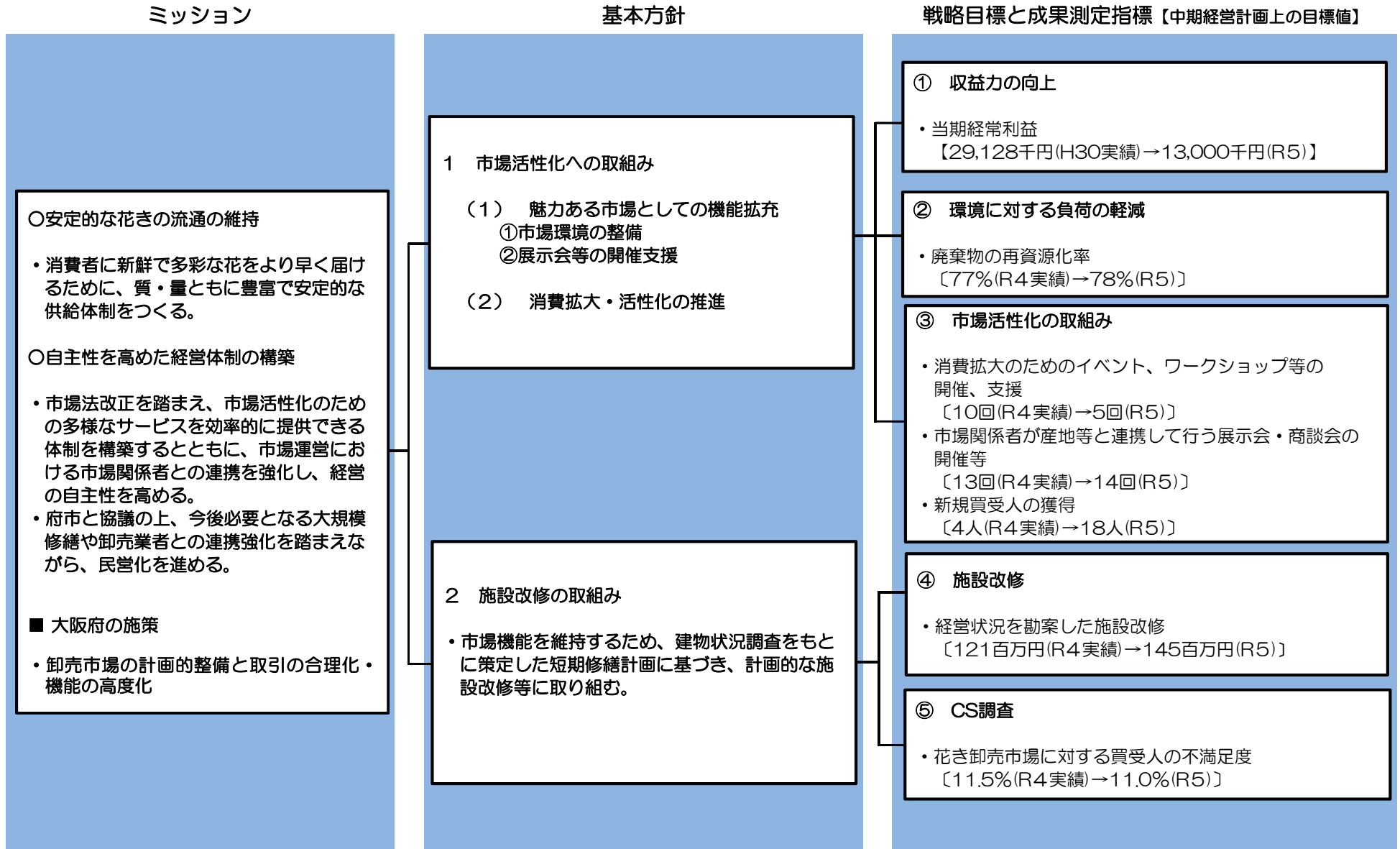
8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言	点数(合計)	役員業績評価
<p>①「収益力の向上」について 令和4年度の大阪鶴見花き地方卸売市場における取扱数量は前年度と同程度であったが、単価高のため取扱金額は前年度と比べ約10%増加した。その結果、卸売会社からの売上高賃料収入が前年度と比べ増加したこと等により、売上高は前年度と比べ約62百万円増加した。光熱費の高騰等の影響から売上原価も増加したが、営業利益は約57百万円、営業外損益を加減した経常利益は約61百万円となり、目標を達成した。</p> <p>②「環境に対する負荷の軽減」について 分別等について場内事業者の協力を得ながら、再資源化に取り組んだ結果、目標を達成した。</p> <p>③「市場活性化の取組み」について 消費拡大のためのイベント、ワークショップ等については、市場に併設する交流施設で5回、市場外の商業施設で5回の合計10回を実施し、目標を達成した。また、市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会についても、合計13回を実施し、目標を達成した。 一方、新規買受人の獲得については、花きの単価高による仕入価格の上昇が小売店の苦境を招き、新規出店を断念する者が多かったこと等から、目標未達成となった。</p> <p>④「施設改修」について 交流施設について、所有者である朝日生命との間で賃貸借契約に基づく「建物の譲渡」の取扱いが未定であった。施設整備については、建物全体の活用方向性を検討する必要があることから、令和4年度は必要最小限の整備とした結果、目標未達成となった。</p> <p>⑤「CS調査」について 買受人へのアンケート結果に基づき必要な改善に努めた結果、不満足度は減少し、目標を達成した。</p> <p>今後は、譲渡を受けた交流施設について、場内事業者等の関係者と調整し、市場運営にとって有用な活用方策を検討する必要がある。また、活用方策の検討は進めつつ、必要な施設改修については、精査のうえ着実に実施することで、企業価値の向上に努めるよう求める。</p>	<p>(評価) ・最重要目標の「当期経常利益」、「消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援」及び「市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等」については目標を達成しており、一定評価できる。 ・「新規買受人の獲得」については3年連続で未達成となっていることから、新規買受人の獲得に向けた取組みが必要である。</p> <p>(指導・助言) ・「新規買受人の獲得」については、目標達成に向けて、新規出店する小売業者だけでなく、他市場の買受人に対しても、「西日本一の花きの品揃え」やどこからでも参加可能なWEBセリをはじめとする市場の強みをSNS等を活用して広くPRするなど、新規買受人の獲得につながる取組みを強化すること。 ・建物の交流施設部分について活性化に向けた取組みの検討を早期に進めること。 ・府保有の株式の売却による法人の民営化を見据え、引き続き、経営状況を勘案した施設改修に取り組むとともに、市場活性化に向けた取組みを推進し収益の向上の拡大などにより、企業価値の向上を図ること。 ・次期中期経営計画の策定にあたっては、これらの取組内容や、民営化を踏まえた収支計画や施設改修計画等の具体的な成果測定指標を検討すること。</p>	<p>75</p>	<p>B</p>

9. 「令和5年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(令和5年2月)

<p>○民営化 ・府保有の株式の売却による民営化 ・ただし、売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する</p>

10. 経営目標設定の考え方



11. R5年度 目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)								
戦略目標	成果測定指標	単位	R3実績値	R4実績値	R5目標値	ウエイト(R5)	中期経営計画最終年度目標値(R5)	
① 収益力の向上	当期経常利益	千円	33,606	61,323	13,786	40	13,000	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)							戦略目標達成のための活動事項	
最重点とする理由、経営上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・当市場が我が国の中核的・中核的市場の一翼として安定的な花き流通に寄与するとともに、市場運営の車の両輪である卸売業者との連携強化(取組み支援)を通じ、魅力ある市場としての機能拡充を図り、より競争力のある市場を目指す。 ・民営化を進めるため、株式の売却時期について、企業価値を見極めた上で判断する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・今後の市場機能の強化のため、交流施設に関しては、譲渡の諾否を想定して、改修等の対策を検討する。 	
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・交流施設所有者である朝日生命と、賃貸契約書に基づく「建物の譲渡」の取扱いについて、関係者と早期の合意形成を目指す。 ・市場内システムの次期更新の準備が円滑に行えるよう、関係者と調整を進めていく。 ・企業価値を高めるために、使用していない旧せり室の階段状買参人座席部分の改修工事を進め、商品の定温保管スペースの拡充を行い、市場機能強化のための事業実施を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> [収益確保] ・市場取扱高の増加支援のため、場内環境の改善や新規買受人の獲得、繁忙期の市場外での荷受けや引き渡し場所の安定的確保に努める。 [経費削減] ・電灯の間引きの継続や一部蛍光灯のLED化による光熱水費の抑制に努める。 [施設整備と機能向上] ・市場内施設の修繕、更新については、交流施設の動向も考慮しつつ、必要最小限で実施 ・花きの品質保持のため、定温スペースの拡充 ・市場機能強化のための検討 	
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日生命との交渉にあたっては、大阪市、監査役及び顧問弁護士からの意見をいただきながら、実施する。 ・市場を取り巻く厳しい環境を踏まえて、取扱高の増加に資する市場機能の強化を検討し、引き続き経費削減を行い、効率的な運営を図る。 							

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	R3実績値	R4実績値	R5目標値	ウェイト (R5)	中期経営計画 最終年度 目標値 (R5)	戦略目標達成のための活動事項
③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	6	10	5	10	-	大規模な集客が見込める商業施設と連携し、効果的なイベントやワークショップの開催を支援する。
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会、商談会の開催等	回	12	13	14	5	-	市場内ギャラリーで各産地の開発商品を展示するとともに、ズームなどWEBも活用して、買受人へ多彩な商品を紹介する場を設ける。
	新規買受人の獲得	人	10	4	18	15	-	「西日本一の花きの品揃え」や「WEBせり」など当市場の魅力について広くPRし、新規買受人を獲得する。
④ 施設改修	経営状況を勘案した施設改修	百万円	134	121	145	10	-	経営状況等を勘案しながら計画的な施設改修と設備投資を行う。 但し、交流施設の取扱が未定のため、現時点では交流施設も含めた建物全体に係る新規工事は精査の上実施。 ・エレベータ更新工事 ・スチールシャッター更新工事
⑤ CS調査	花き卸売市場に対する買受人の不満足度	%	12.0	11.5	11.0	10	-	以下のような場内環境の改善を行う。 ・車の入場規制、誘導方法、市場内物流の改善 ・掲示機能の充実

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(t) / 廃棄物総量(t))	%	76	77	78	10	-	花き包装容器等の廃棄物を大量に排出することから、環境に対する負荷の軽減に向けて取り組んでいく。
---------------	-------------------------------------	---	----	----	----	----	---	-------------------------------------------------

※ ()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値